

# ママつてすごい！みんなで作るコミュニティ ママコモガーデン



代表の栗原まこさん

2年前、江古田に“ママ発”的新しい地域コミュニティ「ママコモガーデン」が誕生しました。代表の栗原さんは、元幼稚園教諭・保育士。今年4歳になる子どもを産んだ頃に感じた思いが、活動の源泉です。

「仕事をやめて、社会からの孤立感が強まっていました。でも、今のママたちは一線で働いてきたスキルをみんな持っている。集まれば何でもできると確信したんです。さらに、習い事がどこも高くてびっくり！ リーズナブルで通いやすい教室がないなら自分でやろ



ダンスと英語を教えるのは、将来世界に出るのに最低必要なツールだからとのこと

うと考えたんです。地域や子どもの年齢の枠を超えた友達も作れたらいいなと思いました」

現在運営している習い事は、キッズダンスと英語。どちらも1回千円で、プロの講師が教えます。講師料などを払うと利益はほとんどありませんが、

「力を合わせれば何かできるという自信を多くのママたちに持ってもらいたい」と笑顔で話す栗原さん。その理念に共感した約10名のママたちが、スタッフとして協力しています。

「みんなが喜んで来てくれる居場所にしたいので、初めて来た方には積極的に声かけをして、1人ぼっちのママを作らないよう心がけています」

取材中のダンススタジオで感じた居心地の良さは、その気遣いのおかげかもしれません。先生や子どもたちと一緒に、ママたちもステップを踏んで楽しそう！

「ちょっとした変化に気付いたり他人の子を可愛がったりできるのも、ママならではの才能。全員、私



子どもも先生もママたちも、みんな家族のよう。ダンスの後に“はい、チーズ♪”

の自慢のママたちです！(笑)」

習い事以外でも、スタッフ各々のスキルを活かしたイベントなどを企画し、自由に意見を言い合える関係で“みんなで作るコミュニティ”を実現しています。今まで習い事に参加した人数は120人にのぼります。人が増えている今は、理念を共有してもらう必要性も感じるそうです。

「“みんなで子育て”が理想。地域に知り合いが増えれば、子どもが小学生になっても、まちで気軽に声がけしてもらえる。たくさん的人が見守ってくれる環境を子どもたちに残してあげたいんです！」

地域のつながりこそが、子どもの財産になる…将来のビジョンが、栗原さんたちのパワフルな活動を支えています。

## ■ママコモガーデン

代表：栗原まこ

メール：[mamacomo.garden@gmail.com](mailto:mamacomo.garden@gmail.com)

<http://mamacomo.jimdo.com/>

**防災知恵袋** ~大切な命を守るために~

No.10 「子どもの防災教育」  
(平成26年6月2日 記)

鈴木 裕子(すずきゆうこ)  
練馬区〈防災・安全〉教育推進協議会「心のあかりを灯す会」会長。平成7年の阪神淡路大震災後、神戸から練馬へ移り住み、練馬区防災課と協働し、子どもの防災教育に取り組んでいる。光が丘在住。

ある児童館で防災人形劇をした時、1年生の児童から「本当にこわい。どうしたらいいですか？」と、質問をされました。「何も準備していないと怖いけど、タンスが倒れてこないように留めたり、水や食料を用意したり

して、家族で話し合っておけば大丈夫ですよ」と伝えました。

子どもたちには、防災について話をするだけでなく、必ず身体を動かして一緒にやってもらいます。例えば、頭を守る“だんご虫のポーズ”や、煙から身を守るために鼻と口をハンカチや服でおさえ、身を低くして逃げる“いも虫のポーズ”、大きな声で「助けて～！」と叫ぶなど。実際に体験してみることで身に付くのです。

子どもの頃から繰り返し体験していると、防災意識を積み重ねていくことができます。学校防災訓練では、1年生は備蓄倉庫の見学と防災人形劇、2年生は起震車と防災クイズなど、学



積極的に手を挙げる子どもたちの、真剣なまなざしが印象的